

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】令和3年11月11日(2021.11.11)

【公開番号】特開2020-24421(P2020-24421A)

【公開日】令和2年2月13日(2020.2.13)

【年通号数】公開・登録公報2020-006

【出願番号】特願2019-172722(P2019-172722)

【国際特許分類】

G 02 B	5/30	(2006.01)
G 02 F	1/1335	(2006.01)
G 02 F	1/13363	(2006.01)
G 02 F	1/1333	(2006.01)
G 09 F	9/00	(2006.01)
G 06 F	3/041	(2006.01)

【F I】

G 02 B	5/30	
G 02 F	1/1335	5 1 0
G 02 F	1/13363	
G 02 F	1/1333	
G 09 F	9/00	3 0 2
G 09 F	9/00	3 1 3
G 09 F	9/00	3 6 6 A
G 06 F	3/041	4 9 5

【手続補正書】

【提出日】令和3年9月30日(2021.9.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

偏光板と位相差フィルムとが積層された円偏光板であって、

前記偏光板は、偏光子および保護フィルムを備え、

位相差フィルムは、重合性液晶化合物が硬化した層のみを含み、

前記保護フィルムは偏光子と位相差フィルムとの間に配置され、

前記円偏光板の寸法収縮速度が $4.1 \times 10^{-4} \text{ mm / 時間}$ 以下であり、

前記保護フィルムの湿度膨張係数は $6.5 \times 10^{-5} \text{ cm / cm / \% RH}$ 以下である円偏光板。

【請求項2】

正面の形状が実質的に矩形であり、

位相差フィルムの遅相軸が円偏光板の長辺方向に平行であり、

位相差フィルムの遅相軸と偏光子の吸収軸とのなす角の大きさが略 45° である請求項1に記載の円偏光板。

【請求項3】

位相差フィルムにおける偏光板側とは反対側に粘着剤層が配置されている請求項1～3のいずれか1項に記載の円偏光板。

【請求項4】

表示パネルを更に備える請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の円偏光板。

【請求項 5】

屈曲可能である請求項 4 に記載の円偏光板。

【請求項 6】

タッチセンサとウィンドウフィルムとを更に備え、

表示パネル、前記タッチセンサ、偏光子および前記ウィンドウフィルムがこの順に積層された

請求項 4 または 5 に記載の円偏光板。

【請求項 7】

タッチセンサを更に備え、表示パネル、偏光子および前記タッチセンサがこの順に積層された

請求項 4 または 5 に記載の円偏光板。

【請求項 8】

ウィンドウフィルムを更に備え、

表示パネル、偏光子、タッチセンサおよびウィンドウフィルムがこの順に積層された請求項 7 に記載の円偏光板。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 8 の何れか 1 項に記載の円偏光板が、粘着剤層を介して表示素子に積層された表示装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 4】

(4) 円偏光板の寸法収縮速度

円偏光板の寸法収縮速度は、以下のようにして測定した。円偏光板を位相差フィルムの遅相軸方向に 50 mm、位相差フィルムの進相軸方向に 50 mm の大きさに切りだした。切り出された円偏光板を厚み 0.4 mm の無アルカリガラス（コーニング社製、製品名：イーグルXG）に貼合し、高温高湿環境（温度 60 °C、相対湿度 95 %）のオーブンに 168 hr 載置した。オーブンから室温環境下（温度 23 °C、相対湿度 55 %）に取り出した直後に円偏光板の寸法を測定した。その後、室温環境下に 24 hr 保管した後に再度円偏光板の寸法を測定し、その寸法変化の傾きから円偏光板の遅相軸方向の寸法収縮速度を計算した。